様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年　５月　１８日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：21530891
研究課題名（和文）　中国少数民族女子青年の進路選択に関わる教育学的研究

研究課題名（英文）
Educational Research on Career Options for Young Women from Ethnic Minorities in China

研究代表者
小林　敦子（ KOBAYASHI　ATSUKO ）
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授　8/084658

研究成果の概要（和文）：
(１）大学生、とりわけ少数民族女子大生の就職難は深刻である。そのため、高校・大学といった上級学校へ進学せずに、中等教育機関(中学・高校)卒業後に外地の第三次産業で働く少数民族女子青年も多い。（２）女性は民族文化の担い手であるが、外地への出稼ぎや社会移動に伴い、少数民族女性が婚姻家庭において民族文化を次世代に伝承することが難しくなっている。（３）学校教育の教育内容に目を向ければ、小学校における全国的な英語教育必修化により、文字言語を持つ少数民族にとって英語教育は負担となり、母語離れが進行しつつある。ただし、民族によって言語戦略は異なる。（４）民族間の矛盾を克服するとともに、民族の誇りを取り戻すため、多文化教育が試みられていることは注目に値する。

研究成果の概要（英文）：
（１）College students, particularly young women from ethnic minorities, find it difficult to obtain employment after graduation. Therefore, after graduating from junior and senior high schools, such female students prefer to leave their local communities and work in distant cities instead of joining college.（２）Women from ethnic minorities are expected to preserve their cultural legacy. However, this is very difficult for them to do because they migrate from their local communities after marriage.（３）English has been introduced as a compulsory subject in elementary school curriculums in China. Minority groups find learning English to be a burden, especially those that have their own character. Many ethnic minority students study Chinese and English in compensation of their mother tongue. Strategy about foreign language is different among ethnic minorities.（４）In order to facilitate reconciliation among ethnic minorities and to encourage them to regain pride in their cultural backgrounds, it is very important to introduce multicultural education in Chinese schools.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学(教育社会学)
キーワード：中国、女子青年、ムスリム、進路選択、宗教、人材開発・開発教育、ジェンダーと教育

１．研究開始当初の背景

本研究は、市場化、グローバル化の過程においてエスニシティが変容する中で、中国少数民族女子青年の進路選択の実態を明らかにし、先行している経済・社会的な分析に、教育学の側面から新たな知見を加えることを目指して行われたものである。

中国内陸部に居住する少数民族は、市場経済化に伴う社会変動の中で、大きな変容を迫られつつある。例えば経済発展に伴い少数民族の価値観が変化し、多くの少数民族が学校に就学するようになっている。従来、宗教上の理由から、子女を学校に就学させなかった少数民族家庭においても、公教育を受けさせるようになった。

また漢語を習得しなければ就職先が無い、という事情から、多くの少数民族が民族言語による教育を受ける民族学校ではなく、むしろ漢語による教育を行う普通学校を選択するようになっている。

こうして、従来、未就学状況に置かれていた少数民族女子青年は、社会変動の影響を直接に受け、進路選択の上でも大きな変貌を遂げようとしている。

２．研究の目的

本研究は、回族、モンゴル族、チベット族、イ族など少数民族女子青年に対するインタビュー、アンケート、追跡調査などに基づきながら、少数民族女子青年の進路選択の実態を検証するものである。

具体的には、以下の諸点に焦点を当てて、研究を遂行した。

①グローバリゼーションの進行の中で、中国少数民族女子青年の進路選択や就業状況はどのようになっているのか、障害の有無、また、どのような進路選択を戦略的に行っているのかを明らかにする。そのため、少数民族女子青年の進路選択に関わる進路選択の基礎的データ収集、及び政策提言の土台となるための実証的分析を実施。

②学校教育の普及に伴う民族固有の文化からの乖離をめぐる諸問題の検討。

③女性教師に焦点を当てた市場化の下での少数民族女子青年のキャリア形成過程の検証(出身家庭、受けてきた教育、進路選択の理由、卒業後の職場生活)。

中国少数民族の言語教育、バイリンガル教育に関する先行研究は蓄積されつつある。しかしながら、女子青年の進路選択や卒業後の追跡調査を含めての研究は、研究の困難さもあり、ほとんど散見されない。その意味で、本研究は一定の意義がある研究と言えよう。

３．研究の方法

(１)北京師範大学、中央民族大学、呼和浩特民族学院における教育調査(2009年6月)

・4年生の就職内定者に対する質問紙調査及び追跡調査(モンゴル族などの少数民族と漢族との比較研究、有効回答数・246サンプル。うち、雪だるま式で15名を選び、卒業半年後にインタビュー調査を実施)

(２)雲南省における教育調査(2009年9月16日～23日)

①南華県

・学生への質問紙調査(イ族地域から小・中・高の5校を選択、有効回答数・749サンプル)

・教員インタビュー(幼稚園・小・中・高の6校の教員)

②魏山市

・回族女性インタビュー(宗教指導者のキャリア形成過程の検証)

・モスク訪問(宗教行事の参与観察及びイン

タビュー)

(３)浙江省義烏における教育調査(2009年12月26日～31日)
・回族インタビュー(アラビア語学校出身者、寧夏・青海からの出稼ぎ者)
・回族幼稚園見学

(４)青海省３県での回・チベット・サラール族教育調査(2010年7月29日～8月5日)
・民族小中学校見学
・教員インタビュー(男性、女性)

(５)内モンゴル自治区における教育調査(2011年2月22日～25日)
・小中学校調査(約100人、参与観察及び質問紙調査)
・女性教員調査(約20人、半構造化インタビュー及び質問紙調査)

(６)寧夏回族自治区における回族教育調査(2011年2月27日～3月3日)
・回族女性教員インタビュー(４人、半構造化インタビュー及び質問紙調査)
・六盤山中学訪問及び教員インタビュー
・女性職業訓練センター見学及び指導者インタビュー

(７)吉林省延吉市調査(2011年9月10日～18日)
・民族学校(小学校、幼稚園)での参与観察及び女性教員インタビュー
・延辺大学での専門家インタビュー

(８)ベトナム・ハノイ、中国珠海市調査(2012年3月14日～21日)
・ムスリム出稼ぎ実態調査(アラビア語学校出身者)

４．研究成果

(１)少数民族の就職問題と学校教育

①少数民族の生徒（小中学生）に対する進路希望調査からは、少数民族であっても大学までの進学を希望する者が多い。

②大卒者の就職難が現在、中国では問題化している。少数民族の場合、漢族よりも大学生の就職が不利となる傾向がある。特に、近年、大卒者急増のため、漢語能力において不安が残る少数民族は、就職難となっている。

②グローバリゼーションの進行、及び第2次産業、第3次産業の雇用増大に伴い、少数民族学生の間で就職に有利になるため、初等教育段階・中等教育段階から普通学校において学ぶ生徒が増え、民族学校の学生数は急速に減少している。

（２）少数民族女性の進路選択と民族文化の伝承

①少数民族の中でも、とりわけ少数民族女子大生の就職難は深刻である。こうした傾向は、少数民族女子青年が高校・大学といった上級学校へ進学することを躊躇させる要因となっている。一方、中等教育機関卒業後に外地で働く少数民族女子青年が増えている。たとえば青海省の少数民族地域のある県では、回族女子青年の中で、上海等の沿海部に出稼ぎに行く者もいる。

②女性は民族文化の継承者である。しかしながら、外地への出稼ぎや社会移動に伴い、少数民族女性にとって、結婚後の婚姻家庭における次世代への民族文化の伝承が難しくなっている。

③少数民族女性にとって、教員は現金収入を得る有力な職業である。しかし、例えばイスラームを信仰する回族の場合、教員になることによって、日常生活が信仰とは乖離し、世俗化が急速に進行している。つまり近代化、グローバル化の過程で中国少数民族のエスニシティが大幅に変容していると言える。

(３)少数民族と英語教育

①学校の教育内容に目を向ければ、グローバリゼーションへの対応のため、2001年の「全

日制義務教育英語課程標準」に準拠して、小学校で全国的に英語教育が導入された。少数民族、とりわけ文字言語を持つ少数民族にとって、英語は母語、漢語に継ぐ第３言語となり、負担となっている。少数民族学生は高校入試、大学入試において　ハンディを負わされることになり、少数民族に不利益を及ぼすリスク要因となっている。

②ただし少数民族によって、言語戦略は異なるものがある。今後、少数民族に合致した3言語教育政策を採ることが必要である。

以下、各民族について検討した結果をまとめる。

１）モンゴル族：母語はモンゴル語(文字言語を持つ)小学校1年生から、母語のモンゴル語及び漢語を学習。学校によっては英語をセールスポイントとして学生募集をするため、小学校１年生から英語学習を開始。普通校への就学・進学が増加しているため、モンゴル民族学校の存立が揺らいでいる。

２）チベット族：母語はチベット語(文字言語を持つ)。小学校1年生から、母語のチベット語及び漢語を学習。調査した青海省のチベット族の小学校では小学校５年生から英語学習を開始。ただし、語学教育への負担感が強く、母語嫌いが増えている。

３）朝鮮族：母語は朝鮮語(文字言語を持つ)。小学校1年から母語の朝鮮語及び漢語を学習。小学校3年生から英語の学習を開始。3言語教育を積極的に受けとめ、民族発展のための戦略として取り組んでいる。ただし、学習負担が漢族に比べて多いという問題がある。

４）回族：長期的な歴史の中でもともとの母語を喪失し、母語は漢語。中学校卒業後に、高校に進学せずに、モスク付設のアラビア語学校(学生は主に中卒者、正規の公教育以外の機関が多数を占める)でアラビア語を学び、卒業後に広州、義烏などへアラビア語通訳として出稼ぎに行く者もいる。彼らは中近東の諸国との貿易に関与し、グローバリゼーションの波に乗っている。

５）イ族；母語はイ語(文字言語を持つものの、あまり使用されない)。調査を行った雲南省では、小学校1年生から漢語を学習し、「漢族の子どもよりもイ族の子どもの方が勉強熱心で成績も優秀」と語る教員もいる。また幼稚園から英会話をカリキュラムに取り入れている。早い段階から英語や漢語を学ぶことで、グローバリゼーションに戦略的に対応しようとしている。

（４）民族間の矛盾と多文化教育への試み

①市場化に伴い、漢族と少数民族間の矛盾が生じている。また少数民族間においても、民族間格差が生じている。たとえば青海省の回族は上海などへ出稼ぎに行き、現金収入を得ている一方、チベット族は言語の問題があり、出稼ぎ者が少ない。そのことが民族間の経済格差を生み出している。

②少数民族における文化伝承の困難性、あるいは民族間の矛盾拡大という社会的背景から、民族の誇りを取り戻し、民族の融和を図る多文化教育が重要となっている。

青海省などの多民族地域ではユニセフの協力によって、多文化教育教材の開発が進められており、注目に値しよう。

（５）国際フォーラムの開催

以上の研究成果に関して、以下の国際フォーラムを早稲田大学において主催して発表を行い、広く研究成果の周知に務めた。

①2009年11月27日、早稲田大学において、「国際フォーラム　少数民族女子青年の進路選択をめぐる教育学的研究―日本及び中国に焦点を当てて―」を主催。鄭新蓉（中国・北京師範大学教授）、他3人の外国人研究者が発表。同フォーラムは、ＮＩＨＵプログラム・現代中国地域研究との共同開催。

②2011年1月26日、早稲田大学において、「国際フォーラム　少数民族女子青年の進路選択をめぐる教育学的研究―東アジア地域に焦点

を当てて―」を主催。ボロル(中国・　内蒙古財経学院、李恩珠(韓国・明知短期大学)、ハスゲレル(首都大学東京・院)、サラントナラ(早稲田大学・院)、など合計4名の外国人研究者が発表。同フォーラムは、ＮＩＨＵプログラム・現代中国地域研究との共同開催。
③2011年11月4日、早稲田大学において、「国際フォーラム　女子青年の進路選択をめぐる教育学的研究―マイノリティの視座から―」を主催。武宇林（北方民族大学）、孫誠（中央教育科学研究院）など外国人研究者の他、早稲田大学・大学院生(留学生3人、日本人3人)が発表。同フォーラムは、ＮＩＨＵプログラム・現代中国地域研究との共同開催。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１４件）
①新保敦子「回族女子青年のエンパワーメントに関する一考察」『教育研究における東アジアの歴史認識(日本教育学会特別課題研究委員会報告書)』、査読無、2009年、114-123頁。
②Shimbo Atsuko "The Progress of Globalization and Educational Reforms in East Asia" *Educational Studies in Japan International Yearbook* No.4.、査読無、2009年、pp.117-122
③張瓊華「中国貧困地域における貧困と教育に関する考察―4つの貧困県の比較から―」国際基督教大学『教育研究』、査読有、第51集、2009年、115-124頁。
④張瓊華「民族文化と学校文化に生きる子どもたち―中国のイ族に対する調査を中心に―」『学習院女子大学紀要』、査読有、第12号、2009年、45-66頁。
⑤ Shimbo Atsuko "Surviving as the Muslim minority in secularized China" 『早稲田教育評論』、査読有、第24巻第1号、2010年、63-77頁。
⑥新保敦子「中国貧困地区影響学生上学不利因素及対策研究」『学術研究』、査読無、第58号、2010年、1-7頁。
⑦新保敦子「改革開放政策下で中国ムスリム女性教師―進路選択・生活実態・アイデンティティに焦点を当てて―」『日本社会教育学会紀要』、査読有、第46巻、2010年、41-50頁。
⑧新保敦子「教育による不平等の形成―改革開放期の中国西北部農村をめぐって」『中国―社会と文化』、査読無、第25号、2010年、18-36頁。
⑨新保敦子「現代中国における英語教育と教育格差―少数民族地域における小学校英語の必修化をめぐって―」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』、査読有、第21巻、2011年、39-53頁。
⑩新保敦子「少数民族地域における多文化教育の実践―中国青海省に焦点を当てて―」『学術研究』、査読無、第59号、2011年、1-14頁。
⑪新保敦子「改革開放政策下での少数民族と中等教育―モンゴル族に焦点を当てて」『学術研究』、査読無、第60号、2012年2月、49-60頁。
⑫新保敦子「中国少数民族地域における民族文化継承と学校教育―回族及び朝鮮族に焦点を当てて―」『中国朝鮮族と回族の民族教育と民族アイデンティティ形成に関する総合的研究報告書』(研究代表　松本ますみ)、査読無、2012年3月、44-55頁。
⑬武宇林「中国寧夏回族女性教師婚姻家庭現状の調査と研究」『日中国際フォーラム　女子青年の進路選択をめぐる教育学的研究―マイノリティの視座から』、査読無、2012年3月、124-130頁。
⑭新保敦子「青少年のための社会教育施設に関する総合的研究―居場所づくりと社会教育の視点から―」（共著論文）『早稲田教育評論』、査読有、第50巻、2012年3月、223-244頁。

〔学会発表〕（計６件）
①新保敦子「教育による不平等の形成」 中国社会文化学会、2009年7月12日、東京大　学。
②新保敦子「グローバリゼーションの進行と

東アジア地域の教育改革」日本教育学会. 2009年8月29日、東京大学。
③新保敦子「グローバリゼーションの下での中国の少数民族教育―外国語教育をめぐって―」アジア教育史学会、2010年3月29日、 国士舘大学。
④鄭新蓉(北京師範大学・教授、研究協力者)「中国農村教師に対する支援体制構築に関わる理論及び実践」、早稲田大学大学院教育学研究科創設20周年記念国際シンポジウム、2010年6月26日、早稲田大学。
⑤張莉(北京師範大学・院生、研究協力者)「少数民族大学生の就職問題に関する研究」、早稲田大学大学院教育学研究科創設20周年記念国際シンポジウム、2010年6月26日、早稲田大学。
⑥新保敦子「中国少数民族地域における民族文化継承と学校教育―回族及び朝鮮族に焦点を当てて―」、国際シンポジウム　越境する中国のエスニック・マイノリティ：朝鮮族の場合、2012年3月24日、早稲田大学。

〔図書〕（計７件）
（１）図書
①新保敦子(園田茂人との共著)　『叢書・中国的問題群　教育は不平等を克服できるか』岩波書店、2010年、176頁。
② Matsumoto Masumi and Shimbo Atsuko " Islamic education in China:Triple discrimination and the challenge of Hui women's madrasas"、*The Moral Economy of the Madrasa : Islam and education today* edited by Sakurai Keiko and Fariba Adelkhah, Routledge、2010、pp.85-102
③新保敦子「東アジアにおける傾向と課題―グローバリゼーションと少数民族女子青年をめぐって」『ジェンダーと国際教育開発―課題と挑戦―』、2012年4月、福村出版、80-94頁。

（２）その他の報告書
①北京師範大学多元文化教育研究中心『中国高校卒業生就業情況調査―以三所学校為例』、31頁、2009年、30頁。本科研との共同研究の報告書。
②新保敦子編著『国際フォーラム　女子青年の進路選択に関する教育学的研究―日本と中国の比較から―・報告書』、早稲田大学MDセンター、2010年、147頁。
③新保敦子編著『国際フォーラム少数民族女子青年の進路選択をめぐる教育学的研究―東アジア地域に焦点を当てて』、早稲田大学MDセンター、2011年、112頁。
④新保敦子編著『中国少数民族女子青年の進路選択をめぐる教育学的研究　最終報告書』、早稲田大学MDセンター、2012年、302頁。

６．研究組織
（１）研究代表者
小林(新保)敦子
（KOBAYASHI　SHIMBO　ATSUKO）
早稲田大学教育・総合科学学術院・教授
研究者番号：90195769

（２）連携研究者
張瓊華
（ZHANG　QIONGHUA）
国際基督教大学教育研究所研究員
研究者番号：10439268

(３)海外の研究協力者
・鄭新蓉（北京師範大学教授、貧困地域における教育支援、ジェンダー論）
・馬平（寧夏社会科学院研究員、寧夏回族の人類学的研究）
・武宇林（北方民族大学教授、回族など少数民族女性の文化）
・呉暁蓉（四川大学教授、四川省における少数民族教育研究）
・張莉（北京師範大学・修士院生、中国農村教育、教育支援論）
・孫誠（中央教育科学研究院研究員、中国成人教育、高等教育）

(４)研究協力機関
・寧夏教育庁、早稲田大学現代中国研究所